

出雲市議会議員 三加茂けいすけ

市政レポート 第2号

2026年2月1日



ご挨拶

2026年が始まり、激動の1ヶ月が過ぎ去りました。
米国によるベネズエラでの軍事行動、突然の衆議院解散、そして島根県東部地震と、国内外で相次ぐ事態に、不安を感じておられる方も少なくないと思います。

社会で起きる変化は、物価高騰などの荒波となり、私たちの暮らしに押し寄せています。先行きが見通せない今の時代だからこそ、国や県よりも暮らしに最も近い場所にある「出雲市」が揺るぎない生活の支えにならなければなりません。

行政経験者として、ひとりの政治家として、目の前の課題に誠実に向き合うことはもちろん、次の四半世紀となる25年先の未来を見据え、次世代に誇れる出雲市をつくることこそが私の責任です。その覚悟を胸に、皆様お一人おひとりの声に真摯に耳を傾け、市政に全力で取り組んでまいります。

プロフィール

1986年（昭和61年）12月生まれ、39歳。斐川町阿宮で生まれ育つ。

斐川西中学校、出雲高校、早稲田大学政治経済学部、早稲田大学大学院公共経営研究科を卒業後、出雲市役所11年、経済産業省2年の行政経験を経て、2025年出雲市議会議員に初当選。現在1期目。

政治との出会いは、大学時代の国会議員事務所でのインターンシップ。

●所属委員会

環境経済委員会、総合交通対策特別委員会、議会広報誌編集委員会

●地域活動等

保護司、島根県カローリング協会会長、阿宮地区社会福祉協議会理事

●特技 茶道、卓球

市政レポート 目次

ご挨拶
プロフィール

9月議会一般質問の要点
12月議会一般質問の要点

各種活動のご報告



#三加茂けいすけ
#出雲を次世代につなぐ。
#出雲市議会議員
#39歳2児のパパ
#早稲田大学大学院修了

令和7年9月議会一般質問の要点

①妊娠・育児における家庭支援について



三加茂

妊娠中の方や3歳未満の子育て家庭にホームサポーターが訪問し、家事や育児のサポートを提供する「家事育児訪問サポート事業」は、共働き世帯にとって家事育児の負担軽減につながる大切な事業です。小学校就学前までは子供に手が掛かるという市民の声を踏まえて、対象年齢を小学校就学前まで拡大することはできないでしょうか。

家事育児訪問サポート事業の対象年齢の拡充については、本事業が県の産前・産後訪問サポート事業に基づき、3歳未満の家庭を対象としていることなどから、現時点では対象年齢の拡充は考えておりません。



市民文化部長



三加茂

妊娠・育児期の母親・父親は、育児・家事に忙殺され、圧倒的に時間が不足しています。必要な支援施策を探す手間も惜しい状況にあるなかで、市の実施する妊娠・育児に関する支援については初回の利用を公費負担とし、母子手帳交付時にクーポン券を各世帯に配布することはできないでしょうか。

現在は妊娠・育児支援のサービスを提供する事業所数が大変限られており、より多くの利用者を受け入れることが難しい環境にあります。妊娠・育児支援のサービスを提供する環境が整っていない現時点では、クーポン券の配布は困難と考えています。



健康福祉部長

②男性の育児参加促進について



三加茂

男性の育休取得率の向上など、男性の家事・育児への参加の機運が高まっています。この流れをより強固なものにしていくために、男性同士が育児と仕事の両立や家庭・子育ての悩みや経験を共有する機会を設けることが重要と考えますが、見解を伺います。

現在は市が実施する「初めての子育て講座」で父親が参加できる場を作っています。ご提案の父親同士が悩みやノウハウを共有することは大切なことであるため、今後更なる機会の創設を検討します。



市民文化部長

三加茂の考え

出雲市には様々な妊娠・育児に関する支援制度があります。私も実際に家事育児訪問サポート事業を利用し、子育ての負担が軽くなった体験があります。これらの制度を多くの人に知ってもらい、実際の利用に繋げるために初回利用を公費負担としたクーポン券の配布が効果的と考えています。家事育児訪問サポート事業の対象年齢拡大と併せて、今後も粘り強く訴えていきます。

また、「男性同士が家庭・子育ての悩みを共有する機会の創設」について、前向きな答弁をいただきました。0歳と3歳の子供を育てる父親として、父親の家事・育児の参加促進に今後も力を尽くします。

令和7年12月議会一般質問の要点

①孤独・孤立対策について



三加茂

令和3年度の市の調査によると、「悩み事・相談事」を相談する相手が「特にいない」と答えた人が約7人に1人となっており、地域での孤立防止が課題となっています。孤独・孤立対策に関する市の取組状況と課題を伺います。

市では、市と社会福祉協議会に相談支援コーディネーターを配置し、孤立している人と社会とのつながりを作るための支援を行っています。また、悩んでいる若者を支援につなげる人材の養成研修や家族の介護を行なっている学生のための相談窓口を設置しています。一方で、支援が必要にも関わらず当事者ご本人に課題認識がないケースへの対応が課題となっています。



健康福祉部長



三加茂

国の調査によると20代、30代で「孤独感がある」と回答した人が多くなっています。彼らは、自ら市や社会福祉協議会の窓口に来ることはほとんどなく、事態が深刻化してから行政に声が届く傾向にあります。孤独・孤立の予防のために、若者・子育て世帯に、どのように手を差し伸べていくか伺います。

「第3の居場所」といわれる学校や家庭以外の居場所と連携を行いながら対応していきます。こういった機関や支援体制があるか、まずは知っていただけるようにしたいと考えています。



健康福祉部長

②身寄りのない高齢者の対策について



三加茂

身寄りのない高齢者のなかでも、認知機能の低下などで日常生活の判断に不安を感じる高齢者にとって重要な権利擁護の仕組みである、成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用促進をどのように行いますか。

広報活動に加えて、これまで関係機関が協議する場が不足していたことから、去年5月に家庭裁判所や専門職団体、市で構成する地域連携ネットワークを設立し、役割分担の再確認や協議を行なっています。また出雲成年後見センターが核となり、毎月の定例会を行うなど専門職のスキルアップを図っています。



健康福祉部長

三加茂の考え

家族・親族の関係、地域や職場での人間関係が薄まりつつある現代社会において、**孤独・孤立の問題は福祉分野のみならず様々な政策課題と広く結びついた問題**です。孤独・孤立は早死や病気のリスクを高める恐れがあることから、WHOは孤独・孤立を個人の問題ではなく、**公衆衛生上の課題**として捉えるべきと提言しています。

既存の制度の隙間に落ちてしまいそうな人たちに「あなたは一人ではない」というメッセージを届けるためにも、**行政が支援機関を巻き込んだ分野横断的な協議の場を率先して設けることが重要**です。

赤ちゃんボランティアに参加しました



10月29日に出雲商業高校での「いのちの楽習講座」参加しました。

当日は、妻と子供と一緒に参加し、1年生に対して子供が生まれた瞬間の誕生の喜びを伝えさせていただきました。また、助産師の方から性感染症やHPVワクチンなどの講義もあり、ライフプランと自身の命に真剣に向き合う生徒たちの姿に大きな刺激をいただきました。

出雲市長に会派要望書を提出しました



出雲市議会所属会派の政雲クラブで令和8年度予算に関する要望書を取りまとめ、11月4日に飯塚市長に提出しました。

今回、私からは主に次の提案を行いました。

- ・家事育児訪問サポート事業の対象年齢拡大とクーポン券の配布
- ・保育園、幼稚園、児童クラブ等の環境整備
- ・デジタルトランスフォーメーションの推進
- ・NPO法人ミライビジネスいずもに関する提案

第1回おしゃべりイズモを開催しました



11月15日に斐川町美南にあるオープンスペース美南で、ゲストと一緒に出雲の話題を語り合う「おしゃべりイズモ」を初開催しました。

今回は山陰で初めてバリアフリー演劇の一般公演を実現した富岡大樹さん、富岡孝之さんをゲストにお呼びしました。バリアフリー演劇の招聘までの経緯や相談支援専門員のお仕事についてお話をしていただき、障がい福祉に関する現状と課題について学びを深めました。

編集後記

今年大河ドラマ「豊臣兄弟」を見ています。
「鎌倉殿の13人」以来の久しぶりの大河ドラマですが、脚本のテンポが良くて飽きません。
私の中の秀吉は竹中直人のイメージですが、彼は今回は松永久秀を演じますね。小栗旬の織田信長とあわせて、日曜日を楽しみにしています（圭祐）

LINEでミニ集会等のイベントのご案内や市政レポートの配布を予定しています。ぜひ右のQRコードからご登録ください。



【発行者】三加茂けいすけ後援会事務所
699-0611 島根県出雲市斐川町阿宮408-5
公式サイト <https://mikamo-keisuke.jp>
電話 080-6194-2899
メール contact@mikamo-keisuke.jp